

# 構文形態論による 日本語動詞複合語の記述

浅尾 仁彦

京都大学大学院 文学研究科 言語学専修

2008-07-05

MLF2008 (神戸大学)

## 本発表の目的

### 目的

構文形態論が、日本語の複合動詞・動詞由来複合語の生産性の記述に有用であることを示す

### 対象

- 複合動詞  
(降り注ぐ, 飛び跳ねる, 歩き続ける, …)
- 動詞由来複合語  
(絵描き, 船酔い, 鉛筆削り, …)

### 構文形態論 (Construction Morphology)

- 構文文法の形態論への適用 (Booij 2005, 2007, to appear)

# もくじ

- ① 先行研究と問題点
- ② 構文形態論
- ③ 複合語の透明性
- ④ まとめ

# もくじ

- 1 先行研究と問題点
- 2 構文形態論
- 3 複合語の透明性
- 4 まとめ

## 先行研究：複合動詞 (影山 1993)

### 語彙的複合動詞

- 打ち上げる, 見逃す, 掘り起こす, …
- 非生産的 / 半生産的
- \*そうし上げる, \*[ゆっくり見] 逃す

### 統語的複合動詞

- 読み始める, 増えすぎる, 言い忘れる, …
- 生産的
- そうし始める, [早く着き] すぎる

## 先行研究：動詞由来複合語 (Sugioka 1996, 2002)

### 付加詞複合語

- 手作り, 日焼け, 仕事疲れ, …
- 非生産的 / 半生産的
- アナロジー依存 (e.g. 千切り → 百切り)

### 内項複合語

- ボール投げ, ゴミ拾い, 宛名書き, …
- 生産的
- スプーン曲げ, ナンバー隠し, …

## 先行研究：まとめ (伊藤・杉岡 2002)

### アナロジー

- 付加詞複合語 (日焼け)
- 語彙的複合動詞 (打ち上げる)

### 規則

- 内項複合語 (ボール投げ)
- 統語的複合動詞 (読み始める)

この分類は妥当か？

## 問題点

### 統語的複合動詞

- 読み始める, 増えすぎる, 言い忘れる, …
- 生産的
- そうし始める, [早く着き] すぎる

### 統語的? 付加詞複合語

- 大阪生まれ, 神戸育ち, 京都住まい, …
- 生産的
- どこ生まれ, [四国の田舎] 生まれ



## 問題点

- 「これらの付加詞複合語の生産性は抽象的なカテゴリに働く規則によるのではなく、特定の主要部に基づいたアナロジーによって形成されたものであると考えられる」  
(Sugioka 1996: 237; 引用者訳)
- しかし「特定の主要部に基づいている」のは、統語的複合動詞も同じ

## 問題点

### 統語的? 付加詞複合語

- 東京に { 住まう / 住む }
- 東京住まい
- \*東京住み

(Sugioka 1996: 249)

### 統語的複合動詞

- 食べるのが { 終わる / 済む }
- 食べ終わる
- \*食べ済む

## 問題点

### 統語的複合動詞と、統語的？付加詞複合語

- 前項は自由に入れ替えられる
- 後項は語彙的な制限がある

### 生産的な内項複合語 (窓閉め, ナンバー隠し)

- 前項・後項ともに語彙的な制限はない

これらの違いは、「アナロジー」対「規則」という二分法では記述できない

# もくじ

- ① 先行研究と問題点
- ② 構文形態論
- ③ 複合語の透明性
- ④ まとめ

# 構文形態論

## 構文文法

- 文法知識は慣習化した構文 (意味と形式のペア) の集合体として記述される
- 語彙と統語規則の違いは、単に構文の抽象度の違いである
  - いわゆる語彙  
e.g. [sky / sky]
  - 一部のみ語彙的指定をもつ構文イディオム  
e.g. [[V]-ed out / worn out from too much Ving]  
(Jackendoff 2002)
  - いわゆる構文  
e.g. [[S] [V] [O<sub>1</sub>] [O<sub>2</sub>] / S causes O<sub>1</sub> to receive O<sub>2</sub> by Ving]  
(cf. Goldberg 1995)

# 構文形態論

## 構文形態論

- 構文文法は、形態論においても有用 (Booij 2005, 2007, to appear)
- たとえば、「-出す」が生産的に複合動詞を形成し、開始の意味をもつことは
  - [[V]-出す / begin Ving]  
という構文によって記述できる
- つまり統語的複合動詞は一部が語彙的に指定された「構文イディオム」である

## 構文形態論

### 語彙的

- [歯止め / ratchet], [秒読み / countdown], ...
- [飛び込む / dive into], [見つける / find], ...

### 前項のみ生産的

- [[N]-生まれ / born in N], [[N]-沿い / along N], ...
- [[V]-始める / begin Ving], [[V]-続ける / keep Ving], ...

### 前項・後項とも生産的

- [[N]-[V] / Ving N]

## 構文形態論

### 構文による記述のメリット

- 「統語的複合動詞」と「統語的? 動詞由来複合語」の並行性を記述できている
- 「内項複合語」の異質な生産性を記述し分けている
- 日本語話者が自然に理解・産出する (creative でない) 複合語全体の集合を明示的に記述している

さらに

- 複合語がどう理解・産出されるかのモデルとよく調和する



## 構文形態論にもとづく語の理解・産出プロセス

### 理解プロセス

- ① 「泣き出す」という形式の入力を受け取る
- ② この形式に当てはまるスキーマを検索する
- ③ [[V]-出す / begin Ving] というスキーマに合致する
- ④ 動詞「泣く」の意味を代入し begin crying という意味を得る

### 産出プロセス

- ① begin crying という意味を表現したい
- ② この意味に当てはまるスキーマを検索する
- ③ [[V]-出す / begin Ving] というスキーマに合致する
- ④ 動詞「泣く」の形式を代入し「泣き出す」という形式を得る

# もくじ

- ① 先行研究と問題点
- ② 構文形態論
- ③ 複合語の透明性
- ④ まとめ

# 透明性

## 透明性 (transparency)

- 複合語の構成要素の意味／形式が、対応する自立語の意味／形式と一致するかどうか
- 例えば「泣き出す」は
  - 前項は透明
  - 後項は意味的に不透明  
(自立語「出す」には「開始する」という意味はない)
- 「前項の透明性」と「後項の透明性」は独立
- この意味での透明性は、分析性 (analyzability) / 構成性 (compositionality) とは明確に異なる概念

# 透明性

## 構文形態論と透明性

- 「泣き出す」の理解・産出は、[泣く / cry] の [[V]-出す / begin Ving] への代入によって達成される
- [出す / put out] は関与しない
- 「泣き出す」の後項の不透明性は、[[V]-出す] 構文が存在しているため
- つまり、構文形態論の記述は「どこで透明性が低下しうるか」を予測する

## 不透明性の生じる箇所

### 語彙的

- [歯止め / ratchet], [秒読み / countdown], ...
- [飛び込む / dive into], [見つける / find], ...

### 前項のみ生産的

- [[N]-生まれ / born in N], [[N]-沿い / along N], ...
- [[V]-始める / begin Ving], [[V]-続ける / keep Ving], ...

### 前項・後項とも生産的

- [[N]-[V] / Ving N]

## 不透明性の生じる箇所

### 透明でなくてもよい

- [歯止め / ratchet], [秒読み / countdown], ...
- [飛び込む / dive into], [見つける / find], ...

### 少なくとも前項は透明

- [[N]-生まれ / born in N], [[N]-沿い / along N], ...
- [[V]-始める / begin Ving], [[V]-続ける / keep Ving], ...

### 前項・後項とも透明

- [[N]-[V] / Ving N]

## 不透明性の生じる箇所：複合動詞

### 透明でなくてもよい

- [歯止め / ratchet], [秒読み / countdown], ...
- [飛び込む / dive into], [見つける / find], ...

### 少なくとも前項は透明

- [[N]-生まれ / born in N], [[N]-沿い / along N], ...
- [[V]-始める / begin Ving], [[V]-続ける / keep Ving], ...

### 前項・後項とも透明

- [[N]-[V] / Ving N]

# 不透明性の生じる箇所：複合動詞

## 複合動詞の不透明性

少なくとも統語的複合動詞の前項は透明

## 前項の意味的透明性

前項は統語的複合動詞なら透明

	語彙的	統語的
透明	<u>聞き</u> 取る, <u>飛び</u> 越える	<u>走り</u> 始める, <u>遊び</u> まくる
不透明	<u>打ち</u> 消す, <u>取り</u> 壊す	-



## 不透明性の生じる箇所：複合動詞

### 複合動詞の不透明性

少なくとも統語的複合動詞の前項は透明

### 後項の意味的透明性

後項は透明・不透明どちらも可能

	語彙的	統語的
透明	走り <u>出る</u> , 噛み <u>切る</u>	読み <u>終わる</u> , 言い <u>忘れる</u>
不透明	作り <u>上げる</u> , 酔っ <u>払う</u>	あり <u>得る</u> , 逃げ <u>まくる</u>

## 不透明性の生じる箇所：複合動詞

### 「-直す」「-合う」：例外

統語的複合動詞であるにもかかわらず、前項が不透明になりうる

- 洗い直す, 立て直す, (気を) 取り直す
- 付き合う, 折り合う, 張り合う

### V<sup>0</sup> 補部型 (由本 2000, 2005)

- -直す, -合う, -終わる, -忘れる, -尽くす
- 語彙的複合動詞に極めて近いふるまいを見せる
- 生産性も比較的低い (浅尾 2006, 2007)

## 不透明性の生じる箇所：複合動詞

## 複合動詞の不透明性

少なくとも統語的複合動詞の前項は透明

## 前項の音韻的透明性 (cf. 伊藤・杉岡 2002: 137)

	語彙的	統語的
透明	<u>飲み</u> 干す, <u>吹き</u> 飛ばす	<u>吹き</u> きる, <u>飲み</u> すぎる
不透明	<u>吹っ</u> きる, <u>吹っ</u> 飛ばす	-

## 不透明性の生じる箇所：動詞由来複合語

### 透明でなくてもよい

- [歯止め / ratchet], [秒読み / countdown], ...
- [飛び込む / dive into], [見つける / find], ...

### 少なくとも前項は透明

- [[N]-生まれ / born in N], [[N]-沿い / along N], ...
- [[V]-始める / begin Ving], [[V]-続ける / keep Ving], ...

### 前項・後項とも透明

- [[N]-[V] / Ving N]

## 不透明性の生じる箇所：動詞由来複合語

### 動詞由来複合語の不透明性

- (生産的な) 付加詞複合語の前項は透明
- (生産的な) 内項複合語は前項・後項とも透明

### 動詞由来複合語の音韻的透明性

- 付加詞複合語の後項は、アクセント型を保存しない (Sugioka 1996, 2002; 伊藤・杉岡 2002; 高野 2006)
  - とゝる
  - むしとゝり (内項複合語)
  - よこどり (付加詞複合語)

## 不透明性の生じる箇所：動詞由来複合語

### 動詞由来複合語の意味的透明性

- 「-作り」「-探し」など：
  - 生産的に内項複合語をつくる
  - 動詞の意味からの顕著なずれは無い
- 「-行き」「-止まり」など：
  - 生産的に付加詞複合語をつくる
  - 交通機関の行き先を表す意味などに特化している

ただし、一般的に立証するのは難しい

## 不透明性の生じる箇所：動詞由来複合語

### コーパスとシソーラスによる意味的透明性の推定

- 「意味が透明ならば、共起する語の集合が類似する」と想定し、共起語を比較することで意味的透明性を推定する
- 共起する語の意味は、『分類語彙表』に基づいて語をソートする msort (村田他 2000) を用いて分類
- コーパスに『CD-毎日新聞 '95 データ集』を利用

## 不透明性の生じる箇所：動詞由来複合語

### 「-作り」と「-向け」の比較

- 「作る」：ふつう直接目的語をとる  
「米作り」  
(例外：「手作り」)
- 「向ける」：ふつう間接目的語をとる  
「子供向け」  
(例外：「顔向け」)
- 一見、「米作り」も「子供向け」も意味的に透明
- 「向ける」のほうが意味的透明性が失われやすいことを予測



## 不透明性の生じる箇所：動詞由来複合語

## 「-作り」「-を作る」がとる名詞の意味

「-作り」		451	「-を作る」		1,164
1	生産物	151 (33.6%)	1	生産物	359 (30.8%)
2	活動	119 (26.4%)	2	活動	265 (22.8%)
3	関係	62 (13.8%)	3	関係	127 (10.9%)
4	組織	39 (8.7%)	4	組織	120 (10.3%)
5	数量	29 (6.4%)	5	数量	88 (7.6%)

「-作り」と「-を作る」の共起語の意味クラスはきわめてよく一致

## 不透明性の生じる箇所：動詞由来複合語

## 「-向け」「-に向ける」がとる名詞の意味

「-向け」				「-に向ける」			
		450				792	
1	人間	133	(29.5%)	1	用・活	223	(28.2%)
2	組織	120	(26.6%)	2	用・抽	166	(21.0%)
3	活動	50	(11.1%)	3	組織	94	(11.9%)
4	生産物	47	(10.4%)	4	活動	75	(9.5%)
5	数量	35	(7.8%)	5	時間	58	(7.3%)

「-向け」と「-に向ける」の共起語の意味クラスはかなり異なる

# もくじ

- ① 先行研究と問題点
- ② 構文形態論
- ③ 複合語の透明性
- ④ **まとめ**

## まとめ

- 構文形態論は、日本語の生産的な複合語を（その解釈まで含めて）簡潔に表現するすぐれた手段となる
- 構文形態論の記述力は、「構文の集積としての文法知識」という構文文法の立場を支持する

ありがとうございました

## 謝辞

以下の方々との議論が本発表に大きく生かされています。感謝申し上げます。

- 田窪行則先生， 京都大学言語学研究室のみなさま
- 山梨正明先生， 京都大学山梨研究室と言語フォーラム参加者のみなさま

また， ツール `m-sort` の利用に関して金丸敏幸氏のご助力を頂きました。ありがとうございます。

## 参考文献 I

- 浅尾仁彦 (2006). 「分析性からみた複合動詞」. MLF2006 発表資料.
- 浅尾仁彦 (2007). 「複合語の生産性と文法的性質」. 『日本語学会 第134回大会 予稿集』, pp. 416–421. 日本語学会.
- Booij, G. (2005). Compounding and derivation: evidence for Construction Morphology. In W. U. Dressler, F. Rainer, D. Kastovsky, & O. Pfeiffer (Eds.), *Morphology and Its Demarcations*. Amsterdam and Philadelphia: John Benjamins.
- Booij, G. (2007). Construction Morphology and the Lexicon. In F. Montermini, G. Boyé, & N. Harbout (Eds.), *Selected Proceedings of the 5th Décembrettes*, pp. 34–44. Somerville, MA: Morphology in Toulouse.
- Booij, G. (to appear). Construction Morphology and Compounding. In R. Lieber & P. Stekauer (Eds.), *The Oxford Handbook of Compounding*. Oxford: Oxford University Press.

## 参考文献 II

- Goldberg, A. (1995). *Constructions: a Construction Grammar Approach to Argument Structure*. Chicago: University of Chicago Press.
- 伊藤 たかね・杉岡 洋子 (2002). 『語の仕組みと語形成』, 『英語学モノグラフシリーズ』, 16 巻. 研究社.
- Jackendoff, R. (2002). *Foundations of Language: Brain, Meaning, Grammar, Evolution*. Oxford: Oxford University Press.
- 影山 太郎 (1993). 『文法と語形成』. ひつじ書房.
- 村田 真樹・神崎 享子・内元 清貴・馬 青・井佐原 均 (2000). 「意味ソー  
ト msort —意味的並べかえ手法による辞書の構築例とタグつき  
コーパスの作成例と情報提示システム例—」. 『自然言語処理』,  
7(1), 51–66.
- Sugioka, Y. (1996). Regularity in inflection vs. derivation: rule vs. analogy  
in deverbal compound formation. *Acta Linguistica*, **45**, 231–253.



## 参考文献 III

- Sugioka, Y. (2002). Incorporation vs. Modification in Japanese Deverbal Compounds. *Japanese/Korean Linguistics*, Vol. 10, pp. 496–509. Stanford: CSLI.
- 高野 京子 (2006). 「日本語の動詞由来複合語におけるアクセントと連濁について」. 『日本言語学会 第 133 回大会 予稿集』, pp. 228–233. 日本言語学会.
- 由本 陽子 (2000). 「V<sup>0</sup> を補部とする統語的複合動詞について」. 『藤井 治彦先生退官記念論文集』, pp. 895–908. 英宝社.
- 由本 陽子 (2005). 『複合動詞・派生動詞の意味と統語』. ひつじ書房.